

ビッグスロットルボディーキット 取扱説明書

製品番号 03-05-0159

適応車種 スーパーカブ C125 (JA48-1000001 ~)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用部品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
- ◎製品には、エッジや突起がある場合があります。必ず作業手袋を着用し作業を行って下さい。
(説明書内で作業手袋未着用の写真がある場合でも、作業時は作業手袋等を着用して下さい。)
- ◎取り付けの際には、工具等を準備し、取り付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書や純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼される事をお勧め致します。
- ◎ボルト、ナットは再使用しますが、摩耗、損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品の物をご使用下さい。
- ◎当製品はクローズド競技用として開発した製品ですので、一般公道では使用しないで下さい。一般公道で使用する場合は、必ず道路運送車両法の保安基準を充たし、遵法運転を心掛けて下さい。
(道路運送車両法の保安基準を充たさない車両で公道を走行すると、違反となり運転者が罰せられます。)
- ◎弊社ポアアップキットや弊社製マフラーと同時に使用する場合はFI コン TYPE-e が別途必要になります。
すでにFI コン TYPE-e をお持ちの場合は、弊社ホームページ上にあるビッグスロットルボディー対応のプリセットデータをダウンロードし、ご使用下さい。(右記二次元コード読み込みにて、ダウンロードページを開く事が出来ます。)



! 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時(エンジン及びマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、作業手袋等を着用し手を保護して作業を行って下さい。
(ケガの原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。
(部品の脱落の原因となります。)
- ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。
- エンジンの回転中は、スロットルボディー吸気管内を不用意に覗き込まないで下さい。(火炎が噴射する事があり、ケガ、火傷の原因となります。)

! 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適切な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通風の良い場所で作業を行って下さい。(火災、爆発等につながる恐れがあります。)
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

製品内容



番号	部品名	個数	リペア品番
1	ビッグスロットルボディー (φ 28)	1	
2	ラバーパッキン	1	00-03-0438
3	アダプター	1	00-03-0439 (0リング付)
4	Oリング 29mm	1	00-02-0406
5	ソケットキャップスクリュー 6x25	2	00-00-0722 (5ヶ入り)
6	バンド (30-45/9)	1	00-00-0050

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。
 品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。
 尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さい
 ますようお願い致します。
 ※リペアパーツはキット内容と若干、形状等異なる場合があります。
 使用につきましては問題ございません。予めご了承下さい。

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

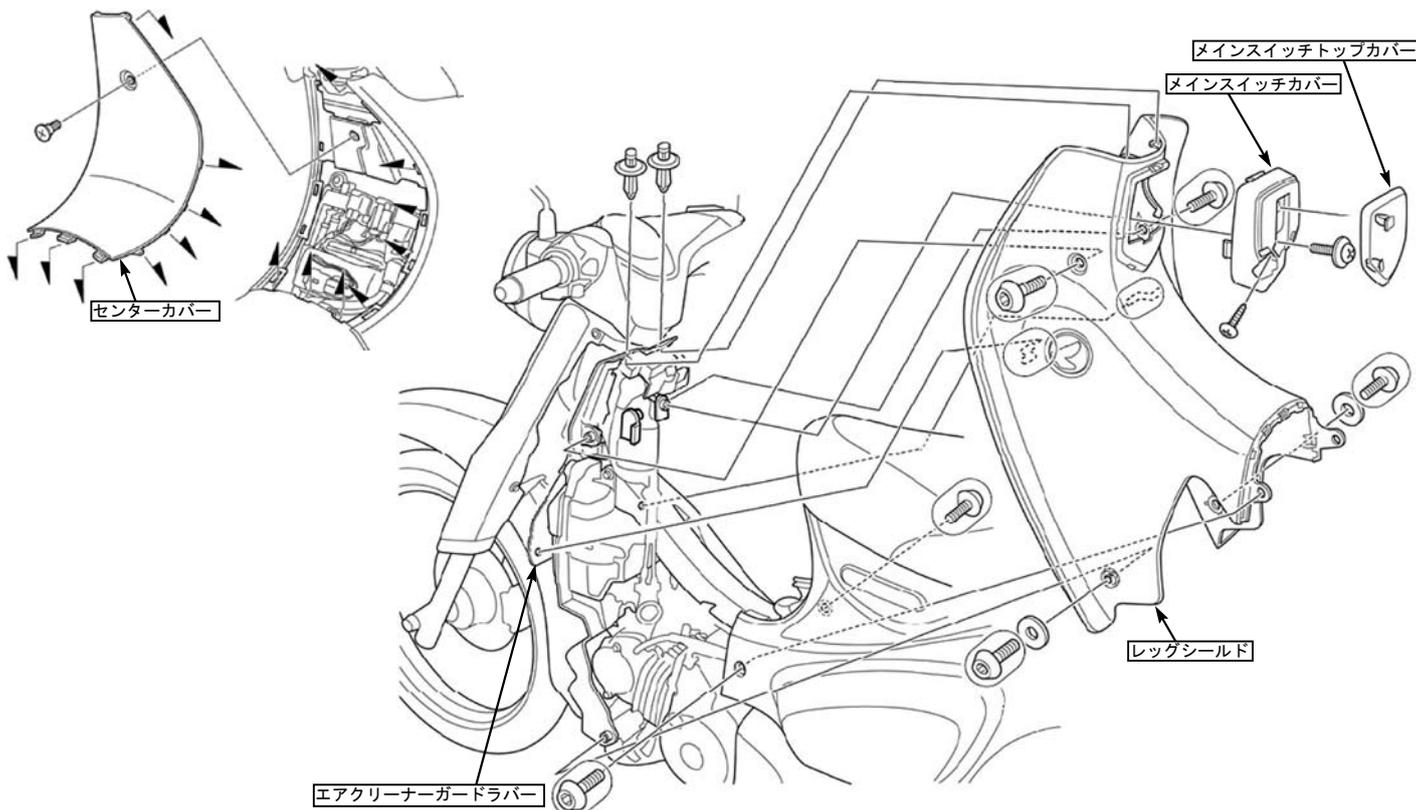
○作業は水平で安全な場所で、センタースタンドを使用して、車両をしっかりと安定させて下さい。

▲注意：本取説での外装部品取り外し作業内容は、詳細を省略した概要のみを記しております。
 外装取り外し作業に不慣れな方は、販売店等に作業を依頼するか、必ずメーカー純正サービスマニュアルの作業手順・締め付けトルクの指示に従い作業を行って下さい。また外装類の脱着時、爪部分や溝部分を破損しないように、注意深く作業を行って下さい。

○FI コンTYPE-e や、各種エンジン部品と同時装着する場合、作業が重複する箇所もありますので各キットの取扱説明書の内容をよく確認した上で作業を行って下さい。

●外装部品の取り外し

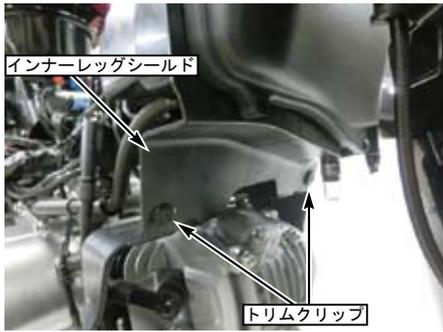
○純正サービスマニュアルを参照し、センターカバー、レッグシールドを取り外す。レッグシールドはエアクリーナーガードラバーのフック部分、メインスイッチトップカバー、メインスイッチカバーを取り外した後、左右のボディーカバーを破損に注意して広げながら取り外す。



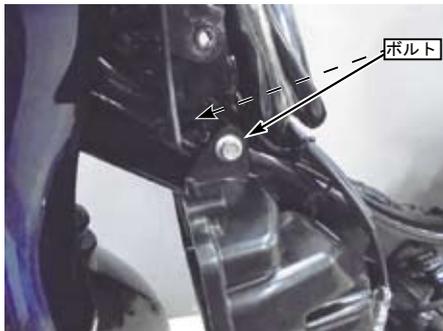
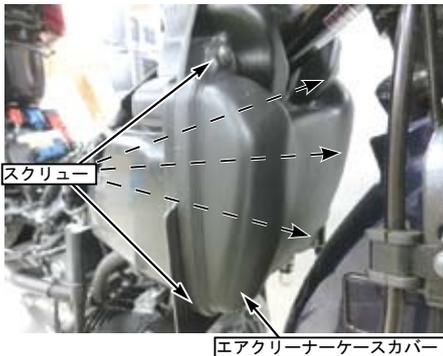
■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

●ノーマルスロットルボディの取り外し

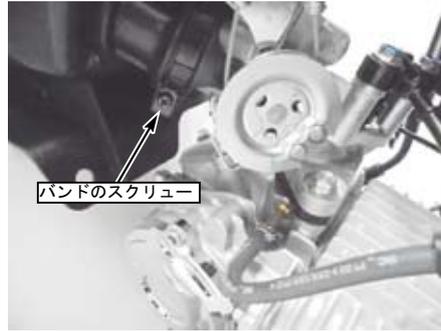
○インナーレグシールドのトリムクリップ 2個を取り外す。



○エアクリーナーケースからブリーザーホースの接続を外す。スクリーン5本を取り外し、エアクリーナーケースカバーを取り外す。エアクリーナーケースのボルト2本を取り外す。



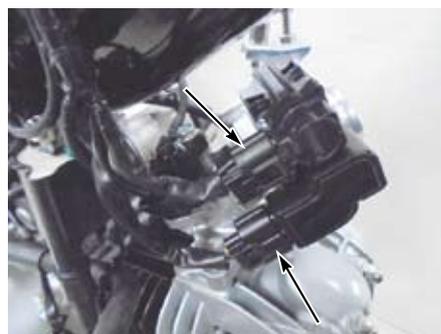
○コネクティングチューブバンドのスクリーンを緩め、コネクティングチューブをスロットルボディから抜き取り、エアクリーナーケースを取り外す。コネクティングチューブからノーマルのバンドを取り外す。



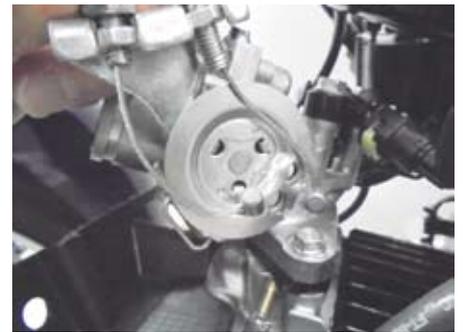
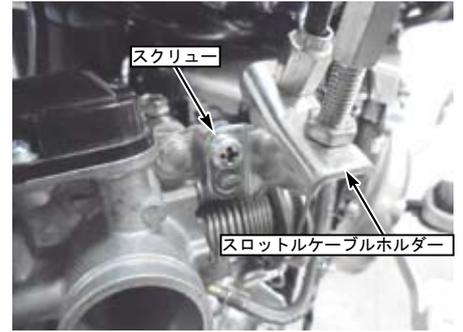
○インナーレグシールドを取り外しておく。



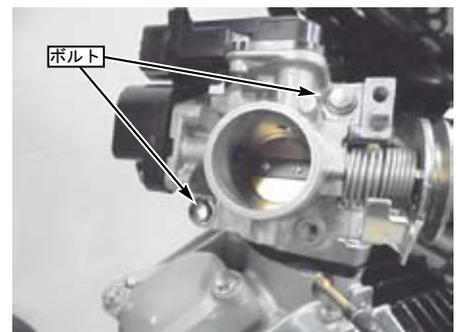
○スロットルボディからセンサーユニット 5P カプラ、IACバルブ 4P カプラの接続を外す。



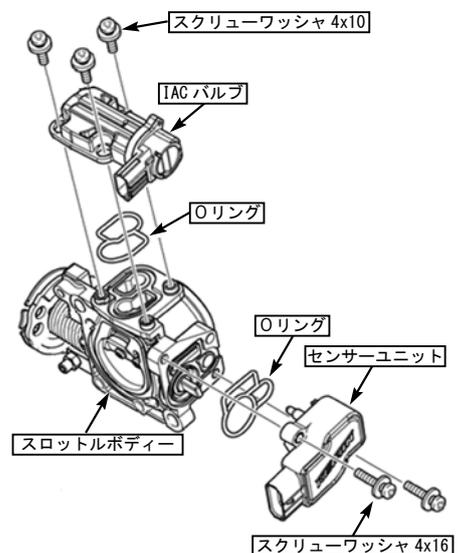
○スロットルケーブルホルダーをスロットルボディに止めているスクリーンを取り外す。スロットルプーリーからインナーケーブルを2本共取り外す。



○ボルト2本を取り外し、ノーマルスロットルボディをマニホールドから取り外す。



○各スクリーンを取り外し、ノーマルスロットルボディからセンサーユニット / Oリングと IACバルブ / Oリングを取り外す。



■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

●ビッグスロットルボディへの取り付け

○前述の図を参考に、各スクリーンを再使用し、センサーユニット / Oリングと、IACバルブ / Oリングを①ビッグスロットルボディに取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

スクリーン

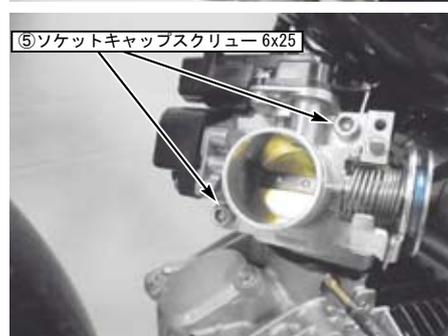
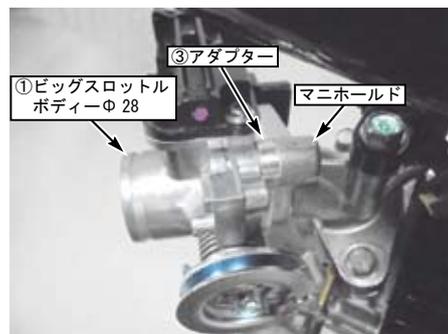
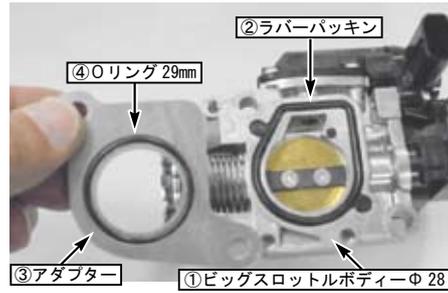
トルク：2.1N・m (0.21kgf・m)

○②ラバーパッキンを取り付けた①ビッグスロットルボディと、④Oリング29mmを取り付けた③アダプターを位置を合わせ、⑤ソケットキャップスクリーン6x25 2本を使用してマニホールドに取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

ソケットキャップスクリーン

トルク：12N・m (1.2kgf・m)

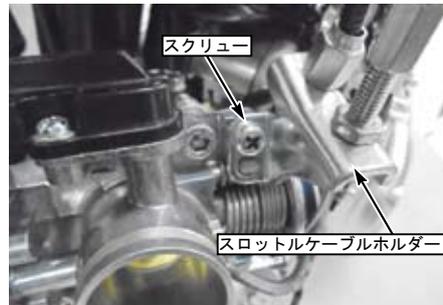


○インナーケーブルをスロットルプリーの指定の位置に接続する。スロットルケーブルホルダーをビッグスロットルボディにセットし、スクリーンにて取り付け。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

スクリーン

トルク：3.4N・m (0.34kgf・m)



○センサーユニットの5Pカプラと、IACバルブの4Pカプラを接続する。



○インナーレッグシールドをレッグシールドステーに位置を合わせ、セットする。

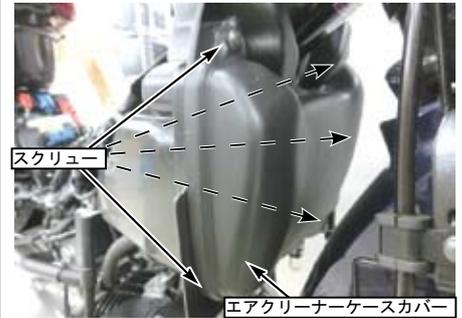
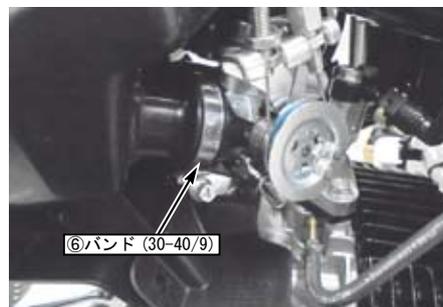


○エアクリナーケースをセットし、コネクティングチューブに⑥バンド(30-45/9)を取り付け、ビッグスロットルボディにはめ込む。ボルト2本にて、エアクリナーケースをフレームに取り付ける。バンドのスクリーンを締め付ける。エアエレメントとエアクリナーケースカバーをスクリーン5本にて取り付け。エアクリナーケースにブリーザーホースを接続する。

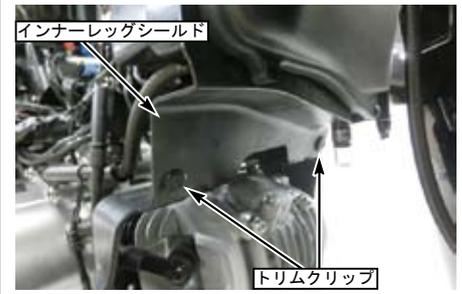
▲注意：必ず規定トルクを守る事。

エアクリナーケースボルト

トルク：12N・m (1.2kgf・m)



○トリムクリップ2個にて、インナーレッグシールドをエアクリナーケースに取り付ける。(多少引張られる状態となるが、そのまま取り付ける)

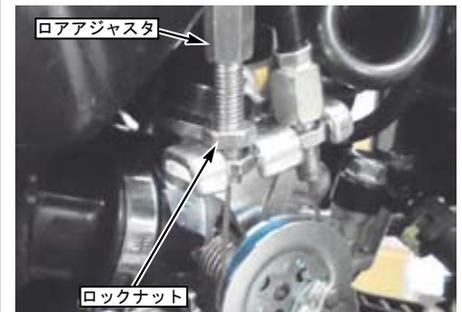
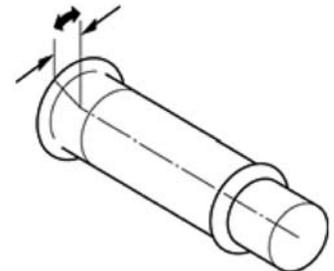


○スロットルグリップの遊びが正規の範囲が確認を行い、範囲から外れている場合はロアアジャスタのロックナットを緩め、アジャスタを回して遊びの調整を行う。調整後、ロックナットを締め付ける。遊び範囲：スロットルグリップフランジ部で2mm～6mm

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

ロックナット

トルク：4.5N・m (0.45kgf・m)



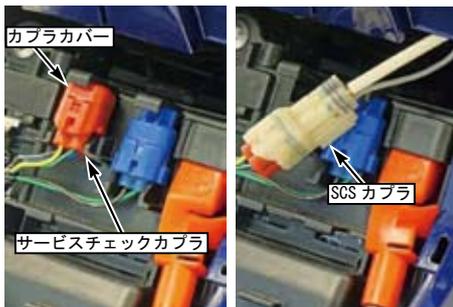
○調整後、スロットルグリップの遊びや作動を再度点検する。また、ステアリングを左右に操作しても遊びがある事を確認する。

スロットル開度センサーの初期化について

○スロットルボディの交換に伴い、スロットル開度センサーの初期化が必要ですが、エンジンコントロールユニットに故障診断コード (DTC) が保存されている場合はその初期化が行えません。まず、DTC が保存されているか確認し、保存されている場合は消去を行って下さい。

●DTCの保存の有無確認

- メインスイッチがOFFであることを確認する。
 - バッテリーカバーにセットされているサービスチェックカブラからカブラカバーを外し、専用工具のSCSカブラを接続し、短絡させる。専用工具が用意出来ない場合は手持ちのリードコード等を用い、サービスチェックカブラ内 青コードの端子と緑/黒コードの端子をつなぎ、短絡させる。
- 専用工具 SCSカブラ
：ホンダ純正品番 070PZ-ZY30100



- メインスイッチをONにし、メーター内のPGM-FI警告灯の光り方を確認する。
 - ・PGM-FI警告灯が点灯したままの場合
⇒DTCは保存されていないのでメインスイッチをOFFにし、「スロットル開度センサーの初期化」の作業に進む。
 - ・PGM-FI警告灯が0.3秒点灯し、消灯した後に点滅を開始した場合
⇒DTCが保存されているので、引き続き後述「DTCの消去」の作業を行う。
- メインスイッチはONのままの事。

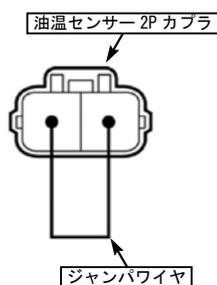


●DTCの消去

- 前述「DTCの保存の有無確認」の作業の後、サービスチェックカブラからSCSカブラの接続を外し、PGM-FI警告灯が点灯してから (リセット受信パターン)5秒以内にSCSカブラをサービスチェックカブラに再度接続する。PGM-FI警告灯が消灯した後、点滅を開始する (完了パターン) と、保存されたDTCは消去される。
- ※必ずPGM-FI警告灯の点灯中にSCSカブラを接続する事。
- ※手順が正しくない場合、PGM-FI警告灯は消灯した後に点灯状態となる (失効パターン)。この場合はメインスイッチをOFFにして再度「DTCの保存の有無確認」から作業を行う。
- ※PGM-FI警告灯が点滅を開始する前にメインスイッチをOFFにした場合、DTCは消去されないで注意する事。
- メインスイッチをOFFにする。

●スロットル開度センサーの初期化

- メインスイッチがOFFであることを確認する。
- サービスチェックカブラにSCSカブラが接続されている事を確認する。
- シリンダーの油温センサー2Pカブラの接続を外す。ワイヤハーネス側の油温センサー2Pカブラ内の端子間をジャンパワイヤもしくは手持ちのリードコードにて接続する。



- メインスイッチをONにするとPGM-FI警告灯が点滅を開始する (リセット受信パターン) ので10秒以内に油温センサー2Pカブラに接続したジャンパワイヤもしくはリードコードを外す。
 - PGM-FI警告灯の点滅のパターンが変化する (リセット完了パターン) と、スロットル開度センサーのリセットが完了する。
 - メインスイッチをOFFにする。
- ※ジャンパワイヤを接続したまま10秒以上経過した場合や手順が正しくない場合は、PGM-FI警告灯は点灯状態となり、リセットは失敗となる。再度「スロットル開度センサーの初期化」の初めから作業を行う。
- 初期化を行った後、油温センサーにカブラを接続する。
 - サービスチェックカブラからSCSカブラの接続を外してカブラカバーを取り付け、バッテリーカバーにサービスチェックカブラをセットする。

●アイドリング回転数の確認・調整

- 出荷時にアジャストスクリューの調整は済んでいますが車両の仕様や個体差により、暖気運転後のアイドリング回転数が基準値に収まらない場合があります。もし基準値に収まらない場合、スロットルブリー下部のロックナットを緩め、アジャストスクリューにて調整を行って下さい。
 - ・回転が低い場合
⇒アジャストスクリューを締め込む。
調整後、ロックナットを締め付け。
 - ・回転が高い場合
⇒アジャストスクリューを緩める。
調整後、ロックナットを締め付け。
- 基準アイドリング回転数 : 1300rpm ~ 1500rpm

⚠注意：アイドリングの調整を行った場合は再度スロットル開度センサーのリセットを行う事。
⚠警告：必ず換気の良い安全な場所で、十分注意してエンジンを始動させる事。



●外装類の取り付け

- 純正サービスマニュアルを参照し、レッグシールドとセンターカバーを取り付ける。

